

学校法人羽陽学園
羽陽学園短期大学
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

羽陽学園短期大学の概要

設置者	学校法人 羽陽学園
理事長名	原田 恒男
学長名	研 攻一
ALO	田中 ふみ子
開設年月日	昭和57年4月1日
所在地	山形県天童市大字清池1559

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
幼児教育科		100
	合計	100

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	福祉専攻	35
	合計	35

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

羽陽学園短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 21 年 6 月 26 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

昭和 35 年度、学校法人羽陽学園を設置、同 40 年度に山形幼稚園教諭養成所を設置し、その後山形保育専門学校を経て、同 57 年度に羽陽学園短期大学として開学した。同 55 年（法人創立 20 周年）に当たり、初代理事長、原田一男の教育における信念と実践を分析し、建学の精神を「敬・実・和」に要約し打ち出したものである。様々な学事活動を通じ、建学の精神の浸透に努めている。

教育課程は幼児教育学科の教育目標等に則して、体系的に編成されている。平成元年度より幼児教育コースと福祉コースの 2 つの教育課程を形成し、保育と社会福祉という今後の社会的ニーズにこたえられる人材を育成すべく、意欲的な教育課程となっている。ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動においても、山形地区の FD 組織に加盟し研究成果を共有することによって、教育の質的向上を図ろうとしている。

教員組織は、短期大学設置基準を充足しており、教員は教育業績及び研究業績などにおいて短期大学教員の資格と資質を有している。教員の年齢構成は全体的にバランスがとれている。主要科目は専任教員が担当しており、実技科目を中心に少人数による教育活動が展開できるよう配慮している。校地・校舎面積は短期大学設置基準を充足している。周囲の良好な環境にある校舎は、適切に整備されており、特に図書館については学生の利用が活発である。

履修科目の単位認定においては、それぞれの授業の特性に対応した評価が行われ、卒業時にすべての学生が、資格を取得できるよう配慮している。また、卒業生の社会適応を見守るシステムを構築し、同窓会と連携して就職後の卒業生の動向を把握することに努めている。

冊子「入試データブック」を発行し多様な入学者選抜の方法について分かりやすく明示しており、入学手続者に対する情報提供、入学前教育、入学時オリエンテーションも適切に行われている。入学後はクラス担任制とゼミ指導制の併用によりきめ細かな学習支援が図られている。クラブ活動も盛んであり、活性化を一層促すために、助成体制が整えられている。就職支援は、入学時からこまめに個人面談を重ねるなど、

丁寧な指導を行っている。

研究費、研究室、研究日が整備され、教員の研究活動はおおむね活発である。さらに教育にかかわる研究の発表の場を「羽陽学園短期大学紀要」及び「コンソーシアムやまがた」において確保している。

社会的活動は、障がい児教育の相談・支援活動において優れた成果をあげている。そのほかにも教育研究活動の成果を積極的に地域社会に還元している。学生の地域社会での継続的なボランティア活動も地元天童市から表彰されている。

理事長、学長ともリーダーシップを適切に発揮し、学園運営に当たっている。教職員も一体となって学園の改革・改善に取り組んでいる。

予算の策定、決定、執行などは円滑に実施されており、計算書類などは公認会計士の監査の下、適正に行われている。

自己点検評価委員会を設置し、第三者評価に教職員全員がかかわってきたことなどから、教職員の改革・改善への意識も高まっている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 「FD・コンソーシアム委員会」を学内に設置し、課題の分析、教員相互の授業公開等で研鑽に取り組んでいる。山形地区のFD組織「FDネットワークつばさ」と「コンソーシアムやまがた」に加盟し、他校との情報交換に取り組むなど積極的な姿勢がみられる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 「手作り教育」という標語を教育活動の特色とし、担当授業に関するフォローアップ指導のほか、クラス担任制度・ゼミ指導制度の二本立ての指導体制を整えて、きめ細かな教育活動に努力している。

- 図書館司書による啓発活動が日常適切に行われていること、学生による図書委員会が機能していること等により、活発に図書館が利用されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 就職1年目の卒業生を対象に、学生課、クラス担任が中心となり、「就職アフターケア巡回指導」を行っている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 「入試データブック」を作成し、過去の入試問題を初め入試に関する数値データを積極的に公開し、入試の公正さをアピールしている。
- 教職員一体の支援や短期大学の財政的支援を背景に、学友会等の学生の主体的な活動が活発であり、学生のほぼ全員がクラブ活動に参加している。地域社会での継続的なボランティア活動を展開しているサークルが、ここ数年続けて天童市から表彰されるという実績を残している。

評価領域Ⅵ 研究

- 特に若手教員の研究意欲は旺盛で、量的な側面のみならず質的にも優れた成果をあげている。外部研究組織への参加、学会発表や学会誌への投稿も、若手教員は積極的に行っている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 特別支援教育を推進するために、「障害児保育研究センター」を設置し、障がい児教育の相談・支援活動において優れた成果をあげ地域に貢献している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善ができれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 到達目標や評価基準を明示するなど「シラバス」の内容を点検し、改善に努めることが望まれる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 管理に必要な諸規程は整備されているが、就業規則等の諸規則に関し、より明確な規程整備が望まれる

評価領域Ⅸ 財務

- 負債が資金を上回っており、支出超過もみられるので、収支バランスの改善も含

めた財務計画を立て、財務体質の改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

昭和 35 年度、学校法人羽陽学園を設置、昭和 40 年度に山形幼稚園教諭養成所を設置し、その後山形保育専門学校を経て、昭和 57 年度に羽陽学園短期大学として開学した。法人創立 20 周年（昭和 55 年）に当たり、初代理事長、原田一男の教育における信念と実践を分析し、建学の精神として「敬・実・和」に要約して理念を打ち出したものである。様々な学事活動を通じ建学の精神の理解に努めている。

当該短期大学は、社会活動に積極的に参加しながら、生涯にわたる自己実現を行う人間性豊かな人材の育成を教育理念として現場において幼児教育に邁進（まいしん）する教員の育成を目指している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

幼児教育学科の教育目標に則し、また学科にかかわる資格取得の法規の規定に則して、教育課程は体系的に編成されている。特に、平成元年度より幼児教育コースと福祉コースの二本立てで教育課程の骨子を形成しており、保育と社会福祉という今後の社会的ニーズにこたえられる人材の育成を目指している。

教育方法の改善に向けた FD 活動に対しても、学生による授業評価のフィードバックを初め、教員相互による授業公開、さらに山形地区で行われている FD 組織に加盟し、積極的に研究成果を共有することによって、教育の質的向上を図ろうとしている。

教育効果向上のために多様化した学生への教養教育における対応策や、分かりやすいシラバスの作成などが行われている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織は、短期大学設置基準で規定する教員数を上回る体制であり、教育業績及び研究業績等において短期大学の教員としてふさわしい成果をあげている。

採用、昇任に当たっては教員選考規程と教員選考基準に基づき適切に実施されている。教員の年齢構成はバランスが取れている。

校地・校舎面積は短期大学設置基準を充足している。周囲の良好な環境にある校舎は、適切に整備されており、特に図書館については学生の利用が活発である。体育館の経年劣化を課題として検討している。

実技科目を中心に少人数による教育活動が展開されている。さらに専任教員と兼任教員との意思疎通を確保するために、定期的に会議を開催し、履修状況や進捗度の把握、指導の公正に配慮している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位の認定方法は、筆記試験、レポート、作品提出、ノート提出、実技試験等、それぞれの授業の特性に対応した評価が行われている。卒業時にできるだけ多くの学生が、資格を取得できるようにと配慮している。

卒業後のケア体制については、「就職アフターケア巡回」等卒業生の社会適応を見守るシステムを構築し、また同窓会と連携して卒業生たちの動向を把握することに努めている。

評価領域Ⅴ 学生支援

「入試データブック」は、多様な入学者選抜の方法について分かりやすく明示している。入学手続者に対する情報提供、入学前教育、入学時オリエンテーションも適切に行われている。個々の学生に対して、入学時よりクラス担任制とゼミ指導制の併用によりきめ細かな学習支援が図られている。

学生生活の支援の体制が整備されており、その支援の下に学生は主体的に学友会活動に取り組んでいる。特に、学生のクラブ活動が盛んであり、クラブ活動に対する助成体制が整えられている。

就職支援に関しては、教授会の下に置かれた就職指導委員会と事務部門の就職指導室を中心にクラス担任とゼミ担任がかかわり、入学時からこまめな就職指導を行っている。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動はおおむね活発である。教育研究の発表の場を「羽陽学園短期大学紀要」及び「コンソーシアムやまがた」に確保し、研究費、研究室、研究日を整備するなど、教育研究の整備にも努めている。また年2回の公開授業と授業検討会により、教育研究に取り組んでいる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

社会的活動を短期大学の重要な使命と位置付け、積極的に取り組んでいる。特に、障がい児教育の相談・支援活動において優れた成果をあげており、「障害児保育教育センター」は特別支援教育推進に当たっての地域の核として評価されている。その他公開講座、各種研修会等教育研究活動の成果を積極的に地域社会に還元するなど住民生活の向上に寄与している。

学生の社会的活動も活発であり、継続的な活動に対しては活動経費等を支援している。その結果、学生のボランティア活動が、地元天童市から表彰されている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は、学長及び法人本部幹部と相談し適切に学園運営を行っている。学長は学科長とともに短期大学事務局と密接な連携を取っている。

教職員が一体となり、協働で業務を行っているが、管理運営に関する諸規程の更なる精査・整備が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

負債が資金を上回っており、支出超過もみられるので、収支バランスの改善も含めた財務計画を立て、財務体質の改善が望まれる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検評価委員会を設置し、第三者評価に教職員全員がかかわってきたことから、教職員の意識が高まり、全教職員がこれからの改革・改善の課題を、これまで教職員の意識が自分の関心や担当（科目）内の部分だけにあったものが、他の教職員とこれらを共有できるようになった。